

令和8年度版 総合計画の進行管理及び課題管理シート（令和7年度の振り返りと令和9年度の取組検討）

施策No	232			
施策名	歴史・文化資源の保存と継承		施策の目的	● 文化財を適切に保存・継承し、後世に残します。 ● 郷土の歴史・文化資源への関心を醸成し、理解を深め、後世に残します。
施策主管部長	教育部長	施策幹事課長	文化財課長	関係課 文化推進課

1. 進行管理
(1) 指標の実績・考察

①中期基本計画の指標 目標年度(令和7年度)の目標値達成状況										
	指標	単位	実績基準値	実績値				目標値	最終年度（R7）の 目標値達成状況	左欄の「目標値達成状況」の総括
			R2	R4	R5	R6	R7	R7		
a	適切に保存・継承されている指定等文化財件数（累計）	件	270	269	274	274	276	278	③目標値を下回った	既存の指定等文化財の保存・継承とともに、新規の指定等文化財の発掘に努めたが、目標値には届かなかった。
b	歴史・文化資源関連のボランティア養成講座 やボランティア活動参加人数（単年度）	人	120	347	703	732	891	1,200	③目標値を下回った	ボランティア活動参加者は毎年増加したものの、若年層の取り込みになかなか結びつかなかったため、目標値に届かなかった。
c										
d										

②後期基本計画 施策の対象・目的及び指標の設定			※令和7年度版 総合計画の進行管理及び課題管理シート「3. 後期基本計画策定のための施策の必要事項管理シート」から転記											
	対象	対象指標		単位	R4	R5	R6	R7	R8(見込)	R9(見込)	R10(見込)	R11(見込)		
①	佐野市に存在する文化財	国・県・市から指定、登録及び認定を受けている文化財件数(累計)		件	269	274	274	274	275	276	277	278		
②	市民	市人口（社人研推計）		人	115,700	114,695	113,498	112,515	111,388	110,515	109,641	108,768		
③														
④														
目的		成果指標		単位	区分	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	
・貴重な文化財を適切かつ確実に保存し、後世に継承していきます。 ・市民一人ひとりが郷土の歴史・文化資源への関心を醸成し、理解を深め、後世に伝承していきます。	①	適切かつ確実に保存・継承されている指定等文化財件数(累計)		件	目標値	275	276	277	278	275	276	277	278	
					実績値	269	274	274	276					
	②	歴史・文化資源関連のボランティア活動参加人数(養成講座、解説・案内ガイド、清掃等)(単年度)		人	目標値	1,050	1,100	1,150	1,200	800	820	840	860	
					実績値	347	703	732	891					
	③				目標値									
					実績値									
	④				目標値									
					実績値									

(2) 基本方針の取組状況

①特に実績をあげている取組（計画初年度(令和4年度)以降の取組状況）	②計画通り進捗していない取組 ※理由及び今後の対応も含めて記載
天明鋳物生産用具国指定推進事業 ・令和5年度に、文化庁および栃木県の指導を受けながら、文化審議会に必要な資料を作成し、文化庁に提出した。 ・令和5年度に、栃木県の協力を得て、栃木県立博物館に国指定候補の生産用具等を寄託した。 ・文化審議会の審議を経て、令和6年3月21日に「佐野の天明鋳物生産用具及び製品」（1,556点）が国の重要有形民俗文化財に指定された。 唐沢山城跡保存整備事業 ・令和5年度から石垣カルテの作成に着手した。 ・石垣の保護と眺望確保を目的とする樹木伐採等の植生整備を進めた。 佐野市遺跡地図作成事業 ・令和7年度に、埋蔵文化財の分布調査の成果を取りまとめ、市全域の遺跡地図を刊行した。	・唐沢山城跡の全体像を理解するための施設「唐沢山城跡ガイダンス施設」の設置については、現在西麓（栃本側）の情報が不足していることから、計画的に西麓の整備・調査を進めながら施設の在り方を引き続き検討する。

(3) 令和7年度行政経営方針の取組状況

①令和7年度行政経営方針	②令和7年度行政経営方針の取組状況
・唐沢山城跡二の丸石垣整備（地形復旧）工事に向け、石垣カルテや整備基本計画により実施設計を行う。 ・唐沢山城跡整備基本計画に基づき、唐沢山城跡の保存・整備・活用を推進する。 ・唐沢山城跡の整備・調査を進める。 ・唐沢山レストハウスや郷土博物館等の施設において、デジタル技術の活用を図りつつ、発掘調査や整備状況についての情報発信を行う。 ・企画展や講座の開設に際して、市民ニーズの把握と魅力的なテーマ設定により、話題性のある事業を企画し、広くPRすることで郷土博物館等の入館者の増加を図る。 ・文化遺産を総合的に保存活用していくための「（仮称）佐野市歴史文化基本構想」の策定に向け、他市の策定内容を参考に具体的な検討を進める。 ・天明鋳物生産用具の保管等について、必要となる保管場所（収蔵庫）の規模、機能等を検討し、閉校した学校など公共施設改修等を想定したシミュレーションを行う。	・南城等の石垣カルテを作成し、これを基に石垣予備診断を行った。 ・山頂主要部の視点場の一つである南城からの眺望を確保するため、樹木伐採等の植生整備を実施した。 ・栃本側根小屋の確認調査を実施し、文化庁及び調査指導委員会に結果報告を行った。 ・講演会でのパネル展示をはじめ、郷土博物館において発掘調査や整備状況についての情報発信を行った。 ・各博物館の入館者の増加を図るため、企画展、講演会、講座を実施した。 ・歴史文化基本構想の検討のため、他自治体の情報収集を行った。 ・天明鋳物生産用具の保管場所（収蔵庫）の検討のため、他自治体の事例など情報収集を行った。

(4) 環境変化や関係者の意見、要望等

・史跡唐沢山城跡保存整備調査指導委員会より、史跡の魅力とともに整備の成果についても情報発信すべきとの指導を受けた。 ・博物館の健全な発達を図るために、文部科学大臣が策定・公表する基準「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成23年告示）の改正新基準（R8.3.31通知）において、博物館資料の将来的な整備及び発展的な活用に向け、廃棄を含めた博物館資料の管理の在り方について検討するよう努めるものとされた。

2. 課題と次年度（令和9年度）の取組
(1) 課題

①国指定史跡唐沢山城跡の適切な保存・整備 ②唐沢山城跡ガイダンス施設（ビジターセンター）の在り方の検討 ③唐沢山城跡の保存・整備に伴う発掘調査や整備状況の情報発信 ④郷土博物館、葛生化石館、葛生伝承館の入館者数のさらなる増加 ⑤葛生文化センターの老朽化に伴う葛生化石館の在り方の検討 ⑥文化遺産を総合的に保存活用していくための「歴史文化基本構想」（マスタープラン）の策定 ⑦国指定天明鋳物生産用具の保管・展示・活用計画の検討 ⑧歴史・文化資源の保存・継承を通じた地域づくりの担い手の創出 ⑨文化財や歴史資料等の整理と収蔵施設の在り方の検討 ⑩指定等文化財をはじめとする歴史・文化資源の新たな活用に向けての検討

(2) 課題に対する今年度(令和8年度)内の取組状況、予定

①唐沢山城跡本丸北側等の石垣カルテの作成及び、石垣保護と眺望確保のための樹木伐採を行う。 ②唐沢山城跡ガイダンス施設の在り方について引き続き検討を行う。 ③唐沢山城跡の保存整備に伴う発掘調査や整備状況について、講演会でのパネル展示をはじめデジタル技術を活用した情報発信を行う。 ④郷土博物館、葛生化石館、葛生伝承館において、市民ニーズを踏まえた企画展や講座を計画的に開設するとともに、学校利用による児童等を対象とした体験学習を実施する。 ⑤葛生文化センター内の葛生化石館の施設の在り方に関する方向性を検討する。 ⑥「歴史文化基本構想」（マスタープラン）の策定に向け、他自治体の策定内容を参考に具体的に検討を進める。 ⑦天明鋳物生産用具の市内保管等について、必要となる保管場所の規模、機能等を検討するため先進地への視察や事例等の調査を引き続き行う。 ⑧歴史・文化資源に関する各種ボランティア養成講座において、随時講座内容の点検を行いながら講座を開催し、保存・継承活動への参加者の増加を図る。 ⑨市が保有する文化財や歴史資料等の所在確認調査を実施し、現在の保有量を把握する。 ⑩まちづくり等への新たな活用が期待できる歴史・文化資源を発掘する。
--

(3) 次年度(令和9年度)の取組(案)

①唐沢山城跡の石垣整備を進めるため、保存整備調査指導委員会の指導・助言により、土矢蔵等の石垣カルテの作成と眺望確保のための植生整備を進める。 ②唐沢山城跡のガイダンス施設の在り方について、実現可能性や費用対効果等を勘案し、既存施設の活用を含めた検討を行う。 ③唐沢山城跡の発掘調査や整備状況の周知のため、郷土博物館や唐沢山レストハウス等の施設において、デジタル技術を用いながら情報発信を行う。 ④郷土博物館等において入館者の増加を図るため、市民ニーズを踏まえた魅力のある企画展や講座を計画的に開設するとともに、学校利用による体験学習を充実させる。 ⑤葛生文化センターの整備と連携し、葛生化石館の在り方に関する方向性に基づき、施設としての魅力や効果的な学びを提供できるよう必要な取組を推進する。 ⑥文化遺産を総合的に保存活用していくための「歴史文化基本構想」（マスタープラン）策定に向け、市内の文化財等に関する現状把握調査を行う。 ⑦天明鋳物生産用具を適切に保管するため、必要となる保管場所の規模、機能等の検討に併せ、閉校した学校などの公共施設改修等による利活用について検討する。 ⑧歴史・文化資源の活用による地域づくりに必要な人材を育成するため、各種ボランティア養成講座の実施内容等について点検・見直しを行い、保存・継承活動への参加者の増加を図る。 ⑨指定等文化財や歴史資料等の保管場所を確保するため、保有量調査を継続し、収蔵庫の規模・機能について具体的に検討を進める。 ⑩指定等文化財や歴史資料等の価値を改めて検証し、今後のまちづくり等への新たな活用方法を検討する。

※重点取組は太字・下線で記載